

パリ稲門会



パリ稲門会について



異業種交流会懇親会

毎月何らかのイベントが行われている状況です。

ここ2年ほどで、会のブログやfacebookを通しての新入会員がどんどん増えており、会の最大行事である「新年会」の参加者数も、うなぎ

のほり。たくさんの会員が気軽に参加して楽しめる会であることを目指しています。



留学生との交流

パリの魅力



ルーヴル美術館

到底、見尽くせない。世界に誇る常設展示品のなかでも圧巻なのはイタリア・ルネッサンス期の絵画だ。あの有名なレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナリザ」をはじめ、ボッティチェリ、ラファエロなど名作がずらりと並び、思わず佇んでしまう。古代の名も知れない人々の労力やルネッサンスの天才たちが作品制作に没頭した長い時間を考えるとルーヴルは人間の気の遠くなるような膨大なエネルギーと時間が凝縮されている空間だろう。まさにルーヴル美術館は、今はやりのパワースポットだ。

ルーヴルで不思議なパワーをもらって外へ出ると、喧騒のなかに歴史を感じさせる建物や素敵なカフェが並び、パリの街並みが待っている。

伊藤治夫
(1980年政経)



コレット広場のカフェ

パリのピストロやカフェで早稲田仲間が時々集まっていた時代を経て、パリ稲門会が正式に発足したのは1988年。今では登録者数が200名を超える会となっています(うち、3分の1ほどは帰国後も在籍され続けている方々。パリの思い出を語り合うパリ稲門会東京支部の活動も活発です)。

現在は片川喜代治会長を中心に、幹事18人で分科会の企画を担当しています。飲み会やお花見などお楽しみ行事を催す「ほころびの会」、早慶ゴルフ対抗戦を仕切る「スポーツ会」、各界から講師をお招きして講演会&懇親会を企画する「異業種交流会」の3会で、ほ



2011年新年会
(パリ国際大学都市日本館にて)



新年会恒例オークション

パリは何といっても欧州の中心だ。欧州で、最高・最上のものがパリに集まるといっても過言ではない。とくに芸術関係は最高のものがパリに集まる。

その最たる場所が、ルーヴル美術館だ。ルーヴル美術館はもともとは宮殿であり、建物自体も魅力的だが、世界中から多くの観光客を惹きつけるのはやはり世界に誇る35000点を超える美術品の数々だ。5000年も昔の古代エジプトのスフィンクス、古代メソポタミアのハンムラビ法典から19世紀の印象派の絵画まで、1日では

会員からのメッセージ

●パリにいても、まるで高田馬場にいるかのように、世代を超えてざっばらんに語り合えることは、私の癒やしの場でもあり、新しい仲間との出会いの場でもあります。私が幹事を担当している「ほころびの会」では、毎年、ソー公園でのお花見、パリ・プラーージュでのピクニック、飲み会を企画しており、毎回大盛況です。今後は、ブログをバージョンアップさせて卒業生ネットワークをもっと広げていきたいと思っています。

川角美佳(2004年文学)

●フランスに魅せられ転職までして、フランス在住は通算で16年を越えました。大学3年の夏休みに初めてパリを訪れ、ノートルダム寺院のステンドグラスに心を奪われたのが運の尽きでした。フランスにはヨーロッパのよいところが凝縮されていると思います。気候は暑過ぎず寒過ぎず、食生活もちろん素晴らしく、文化・歴史好きであれば訪れる場所に事欠きません。スポーツ好きであれば一流のスポーツ観戦が容易です。もちろん、延々と待たされるスーパーのレジ、車の運転のマナーの悪さなどでストレスは溜まりますが、それらを差し引いても魅力的な国であることには変わりありません。

この魅力的な国で素晴らしい稲門会の皆様とご一緒させて頂き、異業種交流会の幹事を担当しています。微力ですが会の発展に少しでもお役に立てれば、この上ない幸せです。

松田健志(1984年文学)

●パリ稲門会には、さまざまな分野で活躍しておられるOB・OGの方がいらっしゃいます。でも忘れてはいけないのは、パリにいる早大現役生。毎年パリには20人程度、早稲田からの交換留学生が来ます。さらに、パリにある国際機関の経済協力開発機構(OECD)に毎年5人、早大大学院生がインターンとして派遣されているってご存知でしたか? パリ稲門会のわれわれは、彼ら現役生とワインを飲みながら人生について語っています。

碓井健太(2008年国際教養)

パリ稲門会の人びと

People

会長メッセージ

パリ生活34年。欧州の大きな歴史の歯車が軋みながら動いていくのを現場で目撃できました。パリ稲門会に積極的に関与し始めたのは、東西ドイツの統一があり、EU統合と共通通貨導入に加速が始まった1990年頃。和田さんが会長で、活動が絶えかかっていたパリ稲門会を蘇らせてくれました。私は6年前に、会長を拝命。活発に諸活動を行っています。

今年のハイライトとしては2つ挙げられます。一つは3・11大震災に対する「早慶上智3学同窓会共催+東大赤門会協賛の支援バザー」。大成功の売り上げでした。もう一つは「若者のためのキャリア講座」。今第一線で活躍中の先輩が、その職業と人生観を語り、明日の日本を背負う先輩の一助になればと企画されたものです。

外から見て、日本の姿は、日ごとに小さくなっています。こういったキャリア講座はもちろん、天下国家は大げさですが、明日の日本を常に視野に入れながら、諸活動を積極的に行い、一隅を照らす気持ちで尽力する所存です。

片川喜代治(1969年商学)

●パリは美しく、暮らすには素晴らしい街です。仕事、プライベートでお付き合いするフランス人の方々も素敵な方々ですが、やはり、とすれば文化の違い、習慣の違いで苦労する、疲れてしまうこともあります。そんなとき、仕事を抜きにしてお付き合いのできる、また酒の酌み交わらせる稲門会の方々との交流は、心安らぐひと時となります。当地ではスポーツ会幹事として、ゴルフ早慶戦を毎年企画しておりますが、それ以外にも交流の機会を増やしていきたいと思っています。これからも、若い世代の方々にこの交流が引き継がれていくことを願っています。

犬井健人(1986年政経)



ソー公園でのお花見



若者のためのキャリア講座